

# 石川県長寿社会プラン2018(案)に対するパブリックコメントの結果について

1 募集期間 平成30年2月21日(水)～3月20日(火)

2 寄せられた意見 4件

番号	意見の内容	意見に対する県の考え方
1	<p><b>【疾病予防、介護予防への支援】</b>                      高齢化は悪くない。悪いのは病であり、介護が必要な状態になると、本人だけでなく家族の負担も増加する。認知症が社会問題になっているのもそのためである。                      がんは恐ろしい病気であるが、生きるか死ぬかの問題であり、むしろ認知症や脳血管疾患、糖尿病などの病気の方がおそろしい。医療が発達した現代において、超高齢化社会は確実であり、介護費も膨大な金額になる。それはすべて税金である。疾病予防、介護予防はまさに我が国の将来を左右する大きな課題であり、今まで以上に力を入れなければならない。                      ささまざまな会社がデイサービスやデイケア、フィットネスなどを運営しているが、民間ベースでは利益を優先しなければならず、予防活動の担い手がないのが現状である。                      予防活動が進めば、認知症や生活習慣病を予備軍で食い止め、医療費・介護費を使わずに、生きがいを持って働き、家族とともに暮らし、自宅で最期を迎えることが出来る。社会問題である「認知症」や国民病ともいえる「糖尿病」、また死亡原因一位である「がん」も運動や栄養、生活習慣の改善により予防できる。                      疾病予防、介護予防は実際に医療や介護を行っている医療法人や社会福祉法人が行うべきであり、そのためには予防に関する経済的支援を実施してほしい。</p>	<p>高齢者が要介護状態等になることを予防するため、各市町において介護予防事業の取組が行われております。                      高齢者が地域で社会参加できる機会を増やすことが、介護予防にもつながることから、県では、地域の元気な高齢者等が支え手となり、他の高齢者の参加を呼びかけ体操等を行う「住民主体の通いの場」の活動が広く実施されるよう、市町の取組を引き続き支援していくこととしております。                      また、介護予防事業については、理学療法士、作業療法士など専門職の関与による予防効果の向上や効率化等の観点から、医療法人や社会福祉法人に事業委託している事例もあることから、県としては、こうした事例も含めて、先進的、効果的な介護予防の取組について研修会等により市町に対し周知していくこととしております。</p> <p>(第4部 第2章 1(2)①介護予防の推進)</p>
2	<p><b>【高齢者の健康づくりへの支援について】</b>                      スポーツだけでなく、シニア世代の有用な智恵・経験を伝える場として、異なる世代が集うカルチャースクールを県がバックアップして積極的に開催してみてもどうか。                      異なる世代がお互い教え教えられる場を設け交流することで、より生きがいや日常に目的を持つことができるようになると思う。また、定年延長や雇用延長を積極的に行う企業等とタイアップし、その企業で働いている人の上に上記のカルチャースクールの講師をお願いしてみるのもよいのではないかと。生きがい等をもってできうる限り長く社会に参画することで、認知症の予防にもつながる。</p>	<p>県では、高齢者自身の生きがいや健康づくりのために、地域のリーダー養成を目的とした「いしかわ長寿大学」や、県民なら誰でも参加することができる「県民大学校」のほか、地域や世代を超えたスポーツ・文化交流が深められる「ゆーりんピック」等の開催に取り組んでおります。                      また、地域活動の担い手として、町内清掃や児童の登下校時の見守りのほか、小学生への農業指導や地域の伝統芸能継承などの次世代育成支援等を行う老人クラブの活動を支援し、高齢者が積極的に社会参加できる居場所づくりに努めております。                      県としては、引き続き、高齢者の方々が、いつまでも健康で生きがいを持って暮らしていくことができる環境づくりに努めることとしており、いただきましたご意見について、今後の施策の参考にさせていただきます。</p> <p>(第4部 第2章 1(1)②高齢者の健康づくりへの支援)                      (第4部 第2章 1(3)①老人クラブ等の生きがい活動の充実                      ②学習機会の拡充と地域貢献 )</p>

<p>3</p> <p><b>【高齢者の生きがい支援】</b>  一人暮らし老人、老老介護、糖尿病（予備軍）、認知症（MC I）が増加している。  それに伴い介護労働力の不足が深刻な問題となっている。定年延長や雇用延長により、年金の受給年齢引き上げや税収の維持などの経済的な面からの効果は期待できるが、それ以上に働く場があると言うことは「生きがい」や「認知症予防」などの健康的な生活を送ると言う効果も大きい。  一般企業向けに高齢者の雇用延長に対して様々な助成金があるが、医療や介護等の人手が足りない分野に人材が向けられるような助成制度にしてほしい。  また全く違う分野からでも介護分野で働けるような働き方支援策を実施してほしい。</p>	<p>要介護高齢者を支える人材の確保は重要な課題であり、これまでも介護・福祉人材確保の拠点である福祉人材センター「福サポいしかわ」において、ハローワークと連携したきめ細かなマッチングに努めてきたほか、就労意欲の高い中高年齢層に対して、介護の入門的研修や職場体験等の実施により介護分野への就業促進を働きかけるなど、様々な施策に取り組んできたところです。  今回のプランにおいても、他分野を何らかの理由で離職した者の介護分野への就業促進に努めることとしており、いただきましたご意見について、今後の施策の参考にさせていただきます。</p> <p>(第4部 第2章 5(1)②他分野からの就業促進)</p>
<p>4</p> <p><b>【高齢者の糖尿病予防支援】</b>  死亡原因の約5割となっている生活習慣病を予防することは、健康寿命の延伸になり、しいては、医療介護費の抑制にもつながるため、今まで以上に生活習慣改善と疾病予防の施策を実行していただけないか。  その一つとして血糖値コントロールを石川県で積極的に取り組むのはどうか。  例えば、九州大学の調査（福岡県久山町の住民調査）では、生活習慣病のひとつである糖尿病やその予備軍の人は、アルツハイマー病のリスクが4.6倍にも高まると報告されている。また、がんによる死亡リスクは3.1倍になり、心筋梗塞や脳梗塞になるリスクはそれぞれ2.1倍、1.9倍になるとされている。糖尿病やその予備軍そこから派生する疾病リスクは非常に高いものといえ、日本の人口に占める割合も大きいからこそ取り組む必要性が高い。  国立循環器病研究センターの約1,000人の患者を対象とした糖尿病実態アンケートにおいても約半数が血糖管理目標に達していないとの結果もある。血糖値を安定させることで、将来の健康に繋がり、リスクを減らすことがもっとできるのではないか。そこで、県として血糖値に関するデータ分析を各医療機関や企業等の協力を得て進め、具体的な血糖値をコントロールする食事・運動に関する活動（情報公開も含む）を行って欲しい。</p>	<p>健康寿命を延伸するため、がんや循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病を予防することは大変重要と考えており、本県では、特定健康診査のデータの分析・活用を進めるとともに、平成28年度に医療保険者や医師会等と連携し、「いしかわ糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を作成し、糖尿病未治療者・治療中断者を治療に結びつけ、ハイリスク者の腎不全、人工透析への移行を防止するための取組を推進しているところです。</p>